

沿革

長崎はキリスト教から生まれた町で、その歴史を代表する町である。1570年長崎港が開かれるときからキリスト教と結ばれていて、二十六聖人の殉教は特に意義深い出来事の一つであった。殉教地は、当町に入る手前の時津街道にはさまれた小高い丘であった。現在西坂公園である。戦後、原爆の破壊から立ち上がった長崎は殉教地であったところを公園に変え、昭和31年長崎県はそこを史跡として指定した。その敷地内に、昭和37年、舟越保武氏作の二十六聖人の記念碑が建てられ、また今井兼次氏の設計によって記念館が建てられた。記念館の目的は歴史的な資料および美術品をもって、

(1)二十六聖人の美德をたたえ、そのメッセージを伝える。

(2)日本における聖フランシスコ・ザビエルの渡米から信仰の自由が認められた明治時代までのキリスト教の歴史を紹介することである。

主な所蔵資料

資料は大きく二つに分けられる。(1)キリスト教時代から伝えられたもの。(2)現代その歴史を表すために制作されたもの。

(1)キリスト教時代のもの

記録、聖フランシスコ・ザビエルのポルトガル国王ヨハネ三世宛の手紙、天正少年使節の中浦ジュリアン神父の手紙。殉教者マストリジ神父の手紙。細川忠興の手紙。島原の乱の記録など。

遺物、大分市丹生で発掘された聖母像、十字架など。天草のキリスト教が制作したメダイ、遺骨箱など。小千ノ浦殉教者の銅版。十六世紀のブロンズ・ピエタ、かくれキリスト教の弥勒菩薩(六世紀)、マリア観音、マカオでつくられた大傘(南蛮傘、江戸初期)、スペインからのブロンズ・プラケット、油絵、ガラス絵など。

古地図、古い地図のコレクションは特に豊かで、日本またはアジアを紹介するヨーロッパ製の16世紀から19世紀までの地図。また日本で印刷された長崎の版画地図。長崎とかかわりがあった都市セビリア、ローマの古い地図など。

キリスト教文庫、展示資料とともにキリスト教研究のため、和洋書合わせて約4,000冊の専門図書がある。

(2) 現代の作品

建築家今井兼次氏は、建物をもって殉教者の心を伝えようとした。特に「栄光の間」と呼ばれる特別展示室はその目的を立派に果たしている。そのステンド・グラスと記念館内モザイク壁画も今井氏の設計である。沢田政広氏作「パウロ三木」(木彫)、舟越保武氏作「高山右近」(ブロンズ)、長谷川路可氏作「長崎への道」(フレスコ絵)、上田康照氏作「ガラシア細川」(油絵)、町田曲江氏作「イルマン・ロレンゾ」(日本画)など。

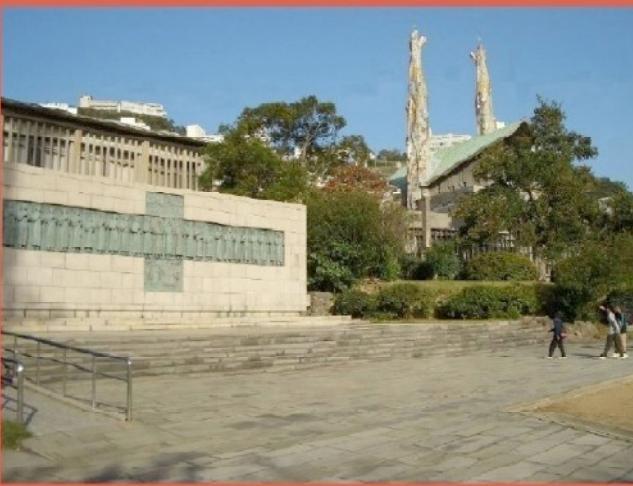
開館、午前9時～午後5時

休館、年末年始のみ12月31日～1月2日)

入館料、一般500(400)円高・中学生、300(200)

小学生、150(100)円。

※()内は20名以上の団体料金。

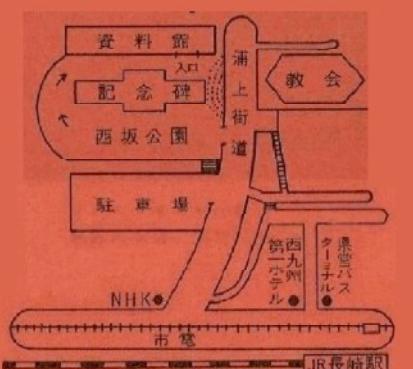


日本二十六聖人記念館

日本二十六聖人記念館

所在地 〒850-0051長崎市西坂町7の8
電話 095-822-6000
FAX 095-823-5326
交通 JR長崎駅から徒歩5分
www.26martyrs.com
martyrs@hotmail.com

Twenty Six Martyrs Museum
Nagasaki



ザビエル

聖フランシスコ・ザビエルは1549年8月15日鹿児島に上陸した。キリスト教史のはじまりである。1999年にはザビエルの渡来450周年、2006年にはザビエル生誕500周年の記念が行われた。九州ではザビエルは薩摩、平戸、博多、大分、種子島を訪れた。当記念館にはザビエルの書簡をはじめ彼を紹介する美術品、書物などが展示、保存されている。

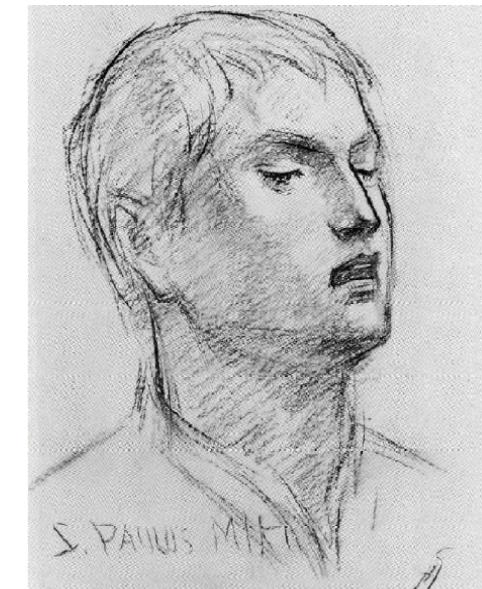


聖フランシスコ・ザビエル 木彫
スペイン 17、18世紀

日本二十六聖人

殉教は1597年2月5日(慶長元年12月19日)に行われた。殉教者は日本人20名、スペイン人4名、インド生まれのポルトガル人1名、メキシコ1名である。殉教地に立つ、当記念館は彼らの「長崎への道」を紹介する。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 聖フランシスコ | 14 聖コマンザロ・ガルシア |
| 2 聖コスメ竹屋 | 15 聖フランシスコ・ブランコ |
| 3 聖ペトロ助四郎 | 16 聖フランシスコ・デ・サン・ミゲル |
| 4 聖ミカエル小崎 | 17 聖マテアス |
| 5 聖ディエゴ喜斎 | 18 聖レオ烏丸 |
| 6 聖パウロ三本 | 19 聖ボナベンツラ |
| 7 聖パウロ茨木 | 20 聖トマス小崎 |
| 8 聖ヨハネ五島 | 21 聖ヨアキム榊原 |
| 9 聖ルドピコ茨木 | 22 聖フランシスコ医師 |
| 10 聖アントニオ | 23 聖トマス談義者 |
| 11 聖ペトロ・バプチスタ | 24 聖ヨハネ絹屋 |
| 12 聖マルチノ | 25 聖ガブリエル |
| 13 聖フィリッポ | 26 聖パウロ鈴木 |



聖パウロ三木舟越保武作 1960年

キリスト文化

長崎は日本と南ヨーロッパ(ポルトガル、スペイン、イタリア)の文化との出会いから生まれた町で、新しい思想、美術、福祉、印刷などが長崎文化に深い跡を残した。海外からの要素を肯定的に見る姿勢が今にいたって長崎の特徴である。

当記念館の資料はその文化と、当時に行われた国際的な出会いの研究を目的とする。



雪のサンタ・マリア 17世紀日本人画家

潜伏—復活



キリスト教の高札正徳元年

1640年から幕末まで長崎県では(浦上、外海、平戸、五島)キリスト教たちが250年の間、密かに信仰を守りつけた。

1865年3月17日、数か月前より開かれていた大浦天主堂で信徒発見の出来事があった。

1868年浦上四番崩れの迫害も起こったが、教会の復活の喜びを抑えることはできなかった。



栄光の間今井兼次 1961年